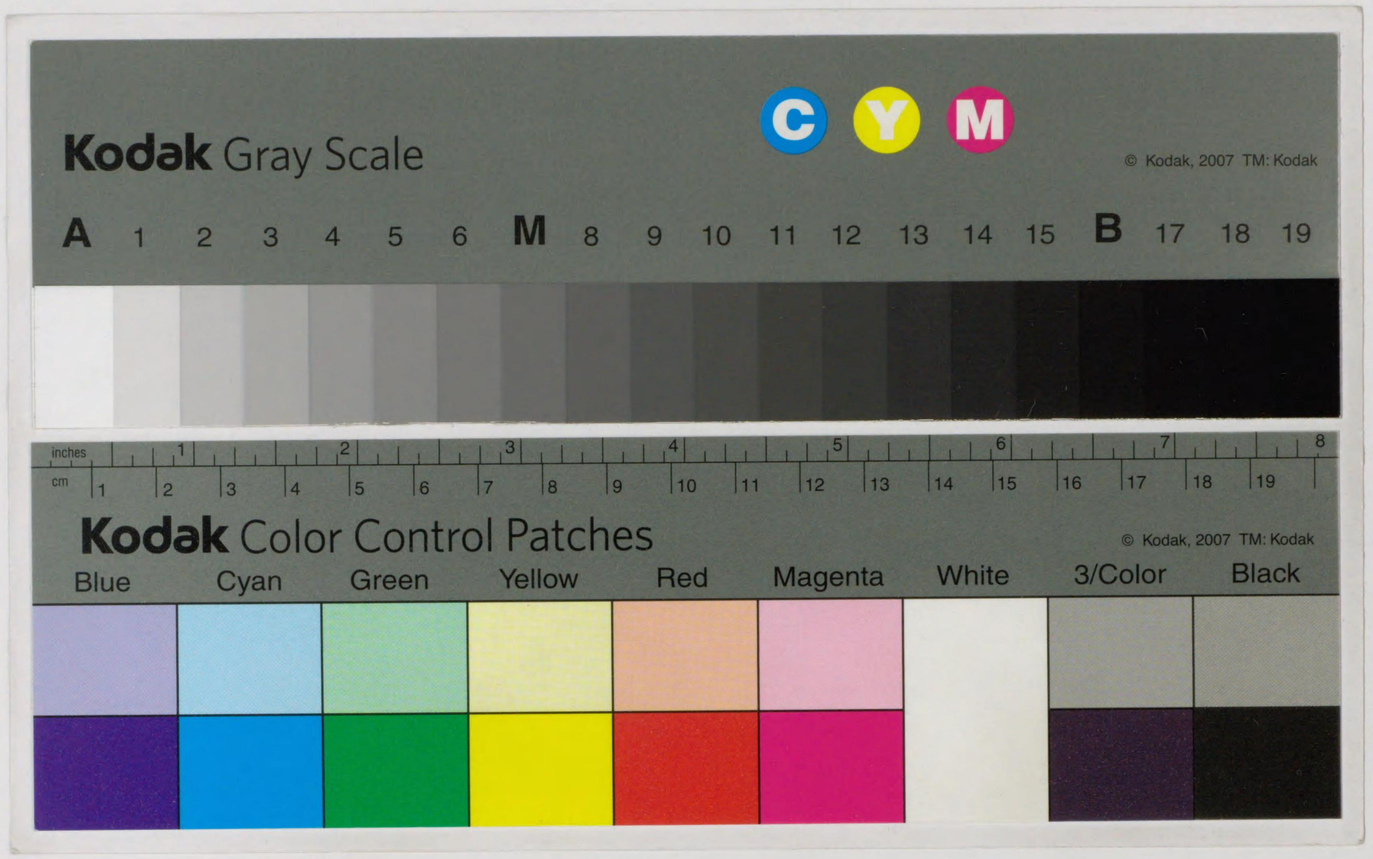

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

川合文庫

雜設雜物第三　同條

更衣　并まゐの事此條に載す

晝夏旬

天曹灌仏

恒吉物　并ふすま

主造雜行淨方

東西檢校条

七壇會

五日節会

任吉淨面種　并淨手盥

大正
13.6.13
内交

膳夫 糸 并水餅 ㊀

牛乳 ㊀ 包子

赤豆 凌

新沸盞一 ㊀ 并糸

擣香 ㊀ 并糸

斗摩沸 ㊀

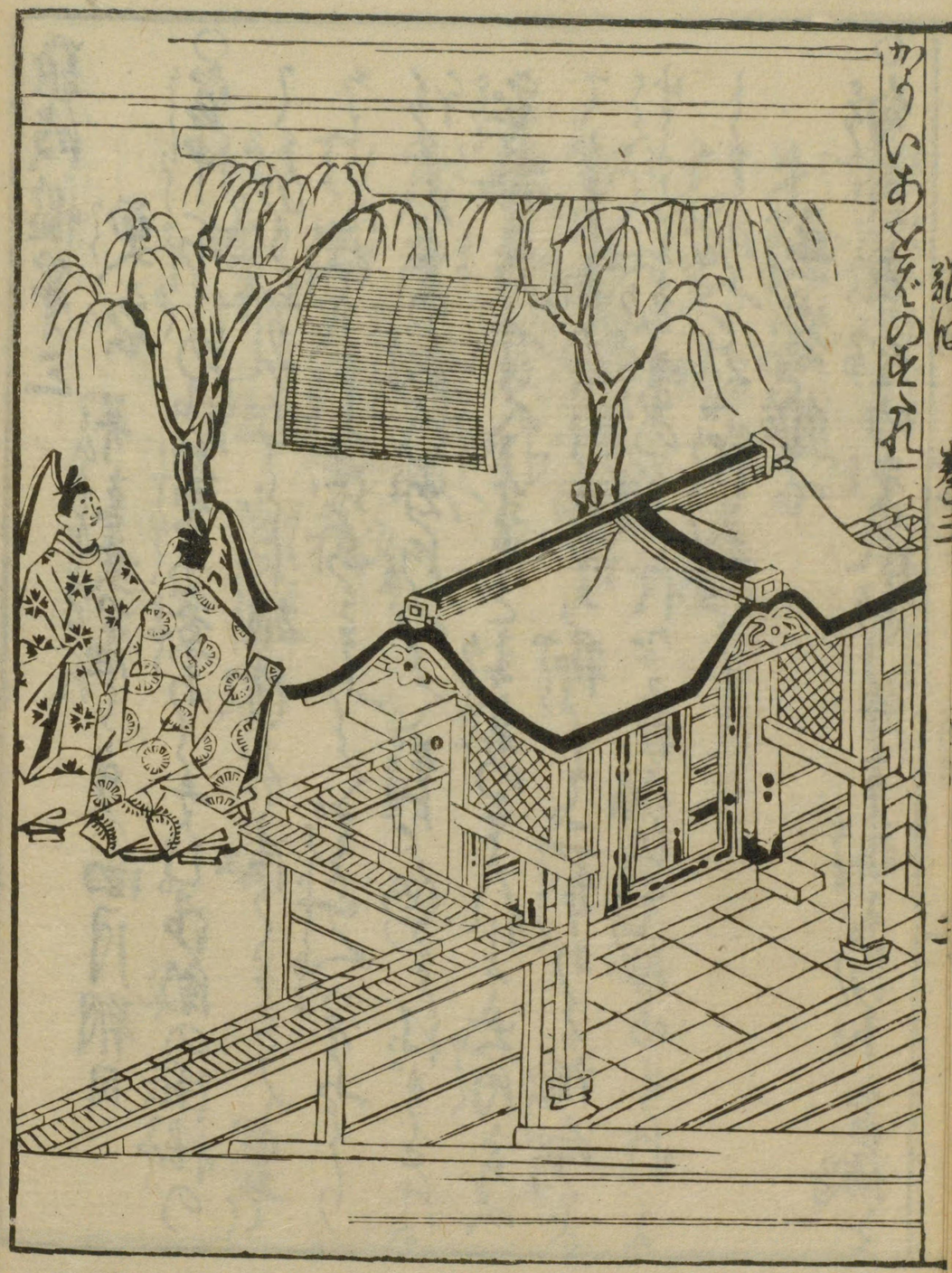
玉滿天并沸 ㊀

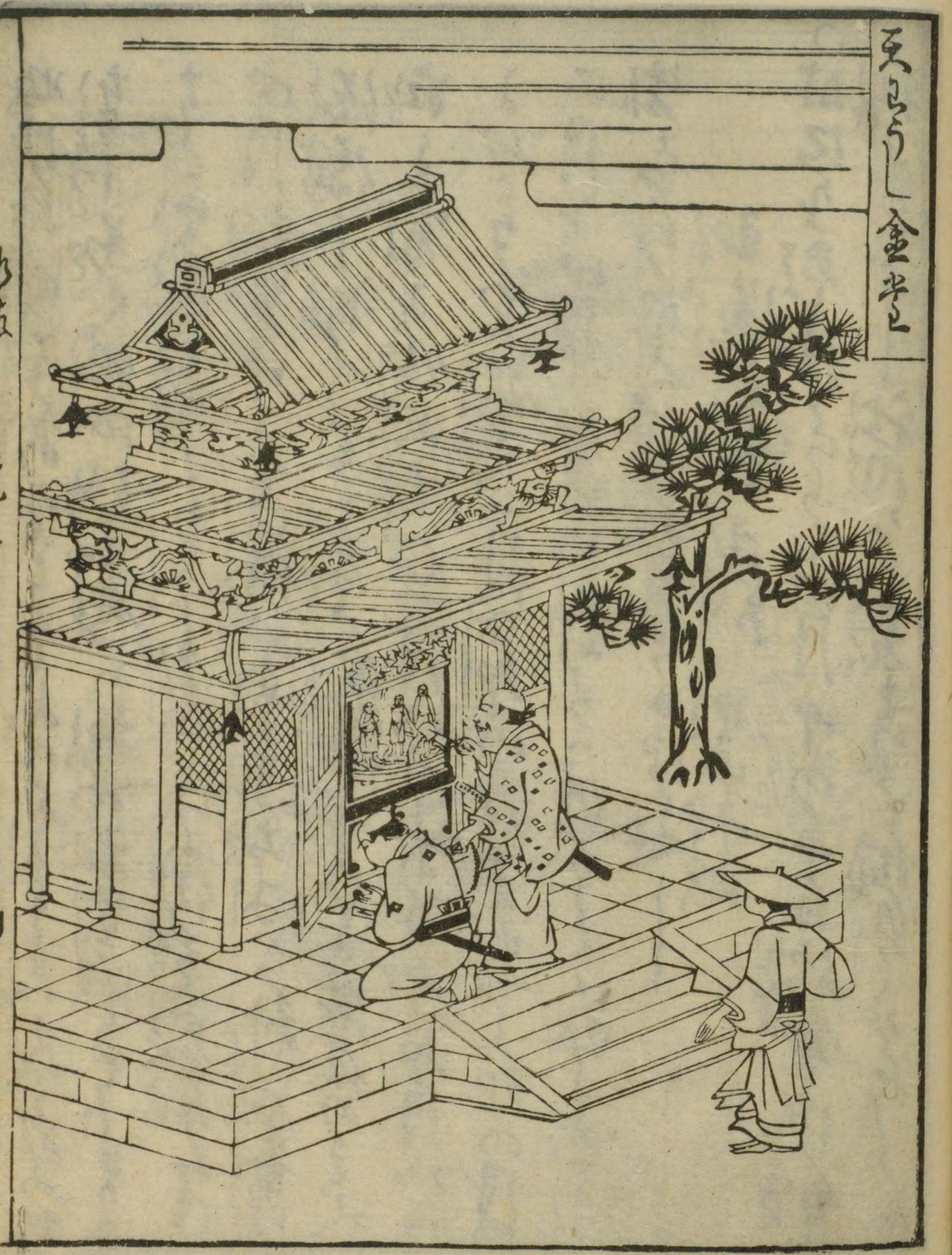
位香沸 ㊀

消燥濃 ㊀

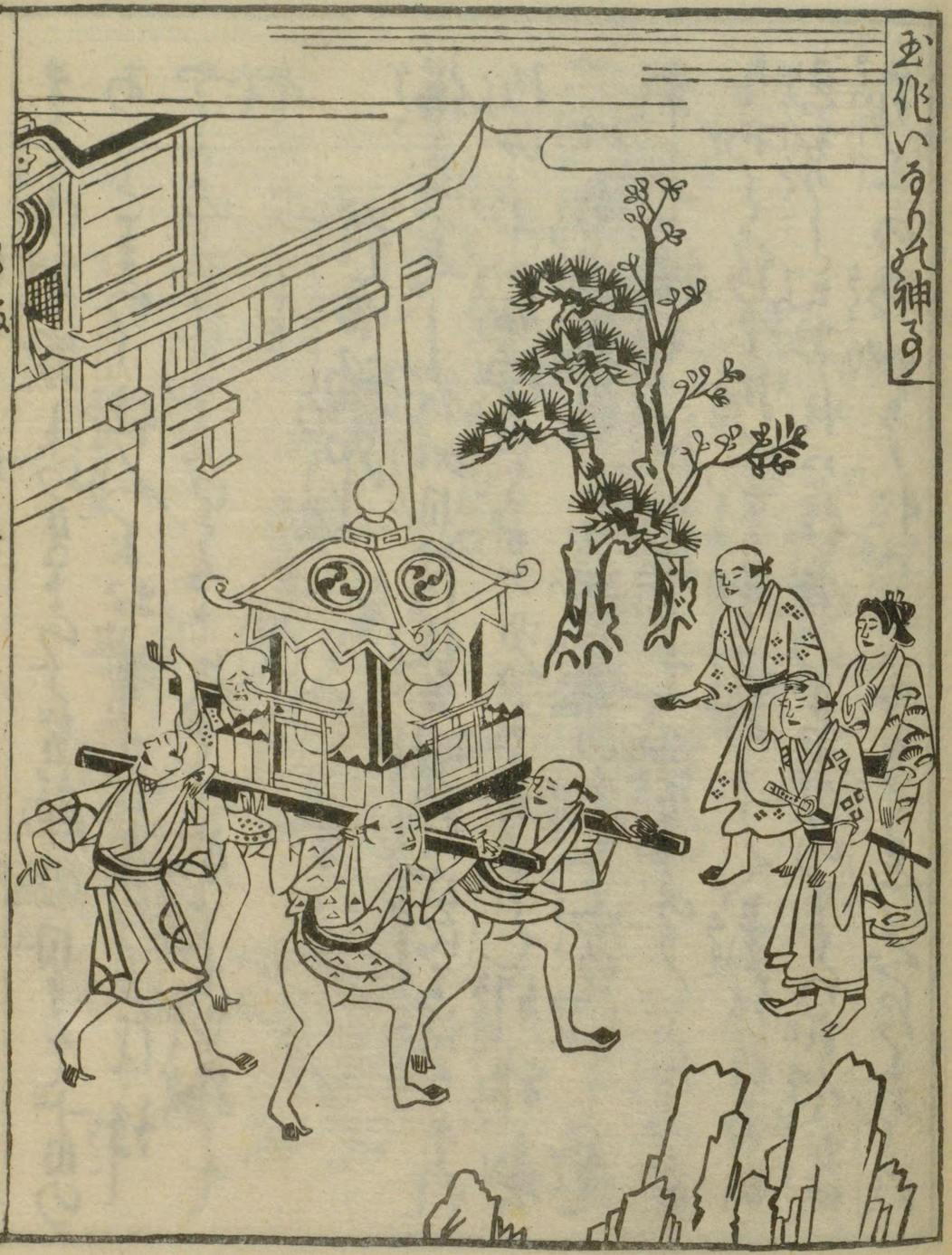
○宮中所 ㊀ 并書葉 ㊀ 四月朔日

○宮中所 ㊀ 并書葉 ㊀ 沸 ㊀ 飯の汁 ㊀ 湯 ㊀ 飯の汁 ㊀ 湯 ㊀ 湯 ㊀ 湯


かういあとぞのぜん



きびしく改めをこなひ、その艘ハ、十月
初旬ごろまで、ここに繋ぎおくべきよし
触れて後ぞ、帰帆ぞおこなふ事ぞ。新酒の艘ぞ
沖合よりぞ、ながめて、喜ぶ。艘ぞ。百種の
此四月の旬ぞ。門松ぞ、ここに建ぞ。
時をつげぞ、ふるぞ、仏ぞ、
ぞ、ぞ、灌仏
○今日ハ、釈迦の誕生ぞ、祥を出ぞ、我
けぶ、事ぞの、辱ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、
ぞ、ぞ、ぞ、



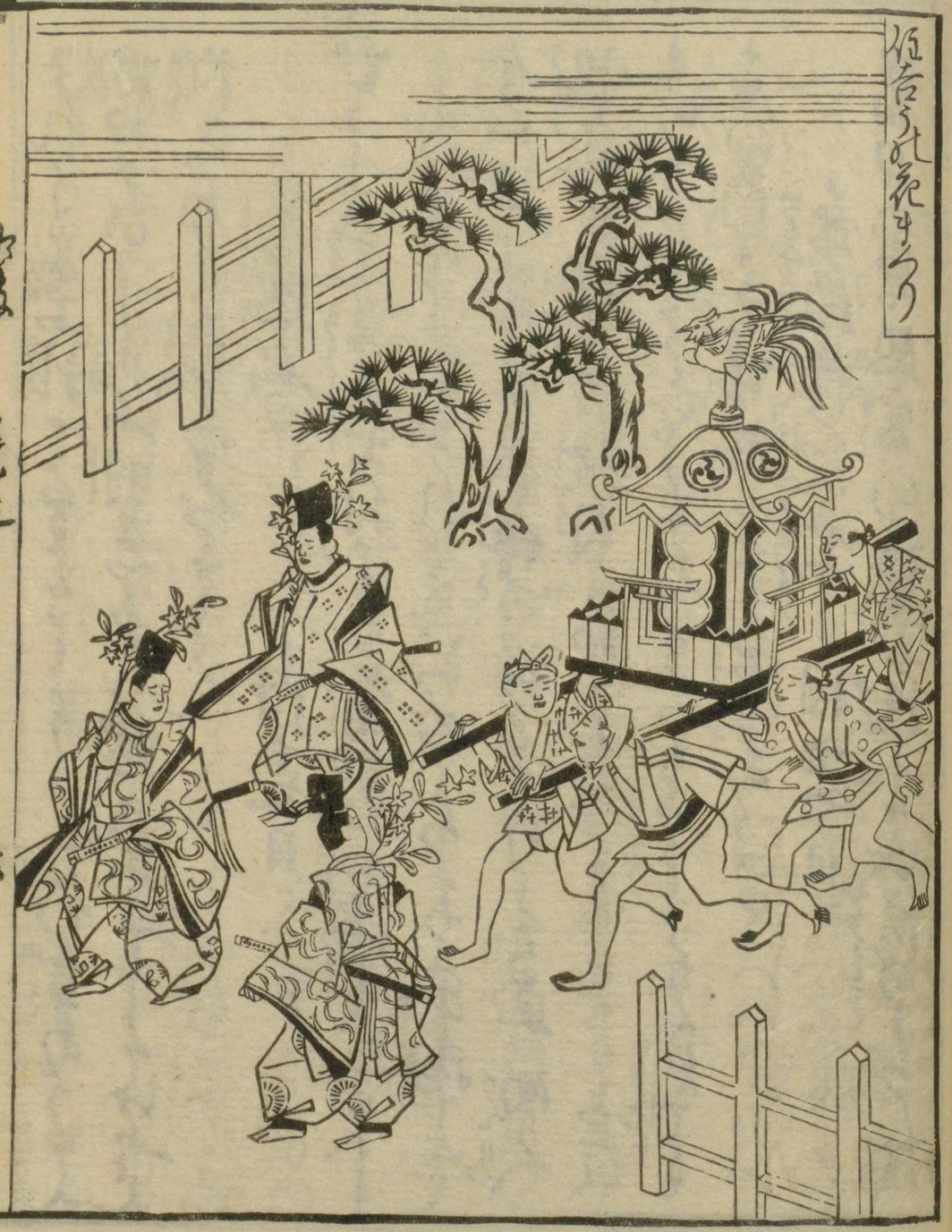
玉作いすりえ神すゑ

ぬけん時。てうそうそうこうみやうの七
なりそんぐ。但此仏ハ。擔ぎ天王ぐるまの
まゝ安置ありて。御ぐしばかり。
四月松宮中一宵堂
活像一体よりて。灌仏の事ハ。又
おくり書よ。仏供ハ。二月八日より。今ハ四月八日
よおこなふ。諺に。二月の卯の日の
二月を四月もち。四月の卯の日の
時もちゐるとかや。
玉造稲荷神社　中の午日
○此日ハ。四月中の午日。狐の祭
礼ありて。

まく沸和容ようい
あつごまう。法ほうよ
やうのうれそとっ
今いまこ

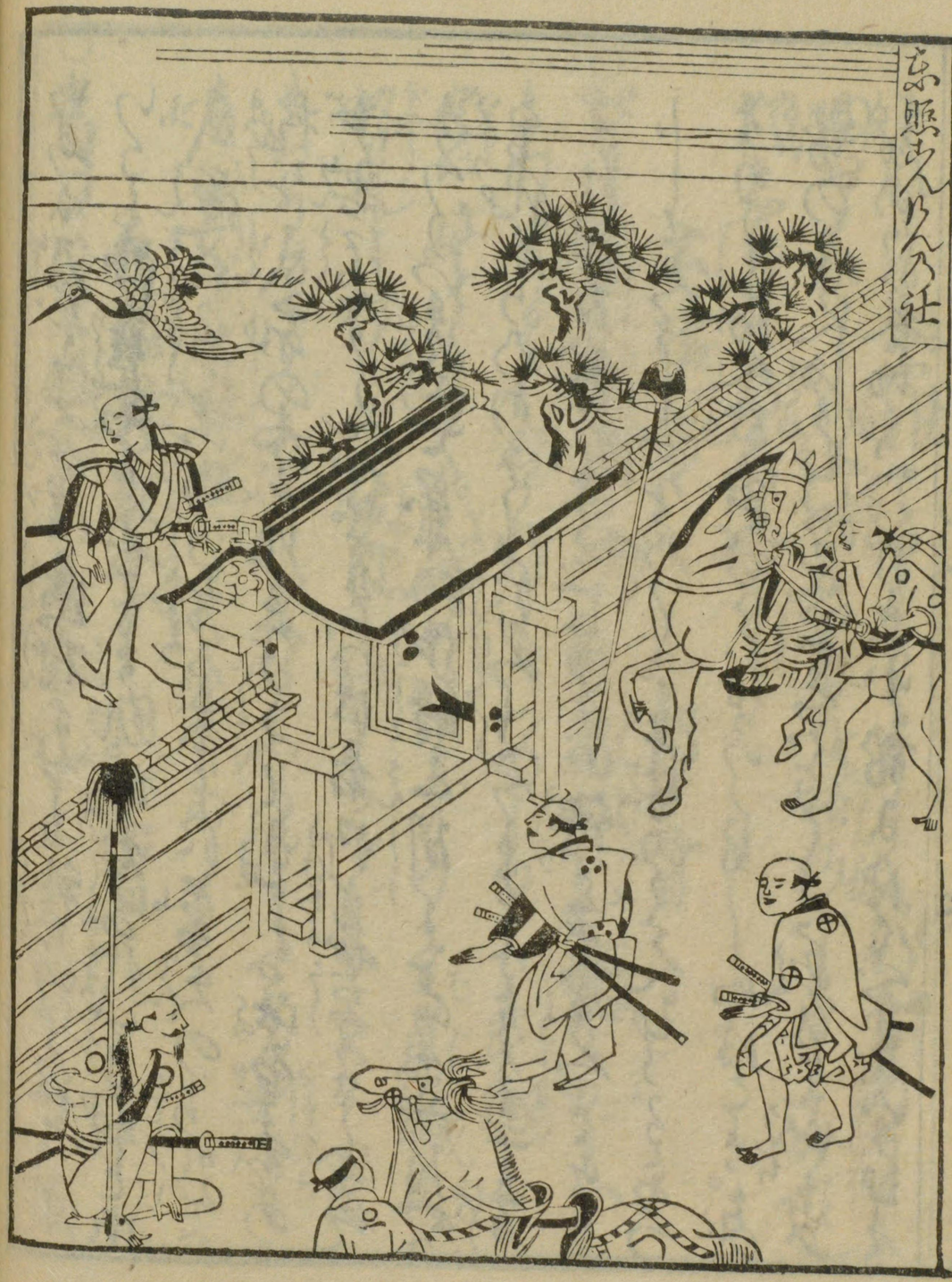
住吉物

○儀ぎよつくくい。此日は。住吉明神ぎやうけをされ
給ふ。家内ゆつまつくく。神妻
一社前の清殿のかの
幸ーい。祝ーて。神酒をつく。和の素
をおくく。給ふくく。
ふれおくく。兒共住吉の
家とのかの松ぬれば。住吉のうまの集
い。さくやくくらあくた。



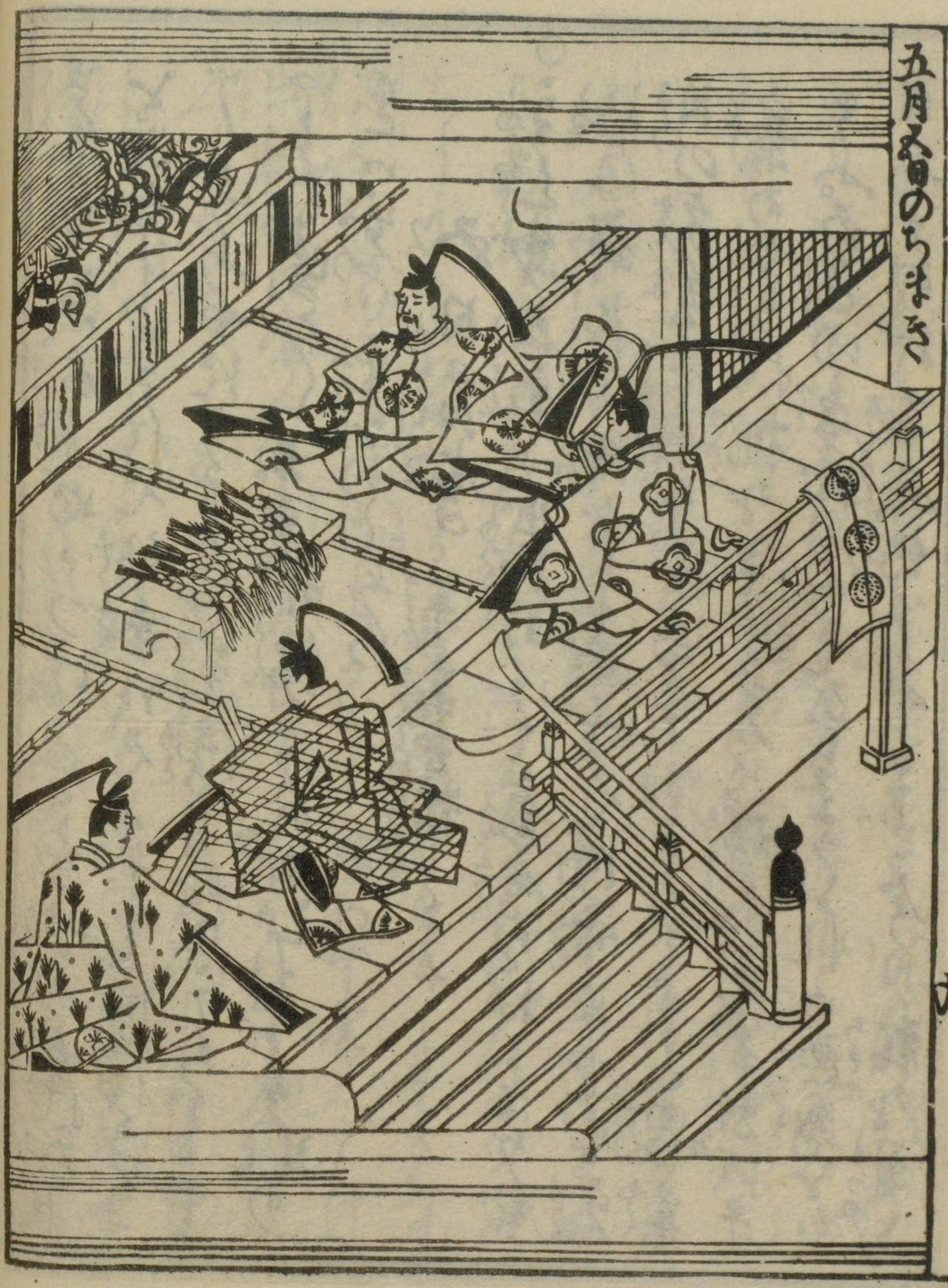
住吉うた花もり

これも楽狂てうまつりの。行事ありて。
ものおもしろし。時。きつねを。棒もちて。
やきつねをおどろかすまねをする。
　　出場所
○むら〳〵。ぜんぶで七村より。
まつりにくるなり。前日より。
宿は。いつのころよりか。
なく。はやもう〳〵。その時の
初まりと。村の社人より
まつりそうろうしるしを。
もらいそうろうなり。
ものの内より。古証拠
　　本照権現祭
○当日は。東照宮の法会
　　同十五日
○当日は。前日のお祭を。
　　同十七日
○当日は。東照宮の法会
いつよりなどうぐ。里遠村
いつより。法会ありて。
武運長久のいのりをなす。
権現を武家のやまとよりも
法恵院さまんやうをいわ
まつりのまま七年の法時
宿をもちうけて。
まつりは二百余人。一方
じとんでうをうつ。
まつりゆえ。出者よりは
朝のうえゆえもの。公ち
物のうえゆえ小勢よりは


京照山くりこ社

そもそも今多勢いで心よ沈みあり。
まづ小袖をそなたへ投げ給へ。
あるじの御前の御つまを取つて
そつと伴なへ。
のつそつとしてゐまいぞ。
とよ。
出。
祖父二位殿人を重
しぬいそぐこと。
侍ども急ぐ。

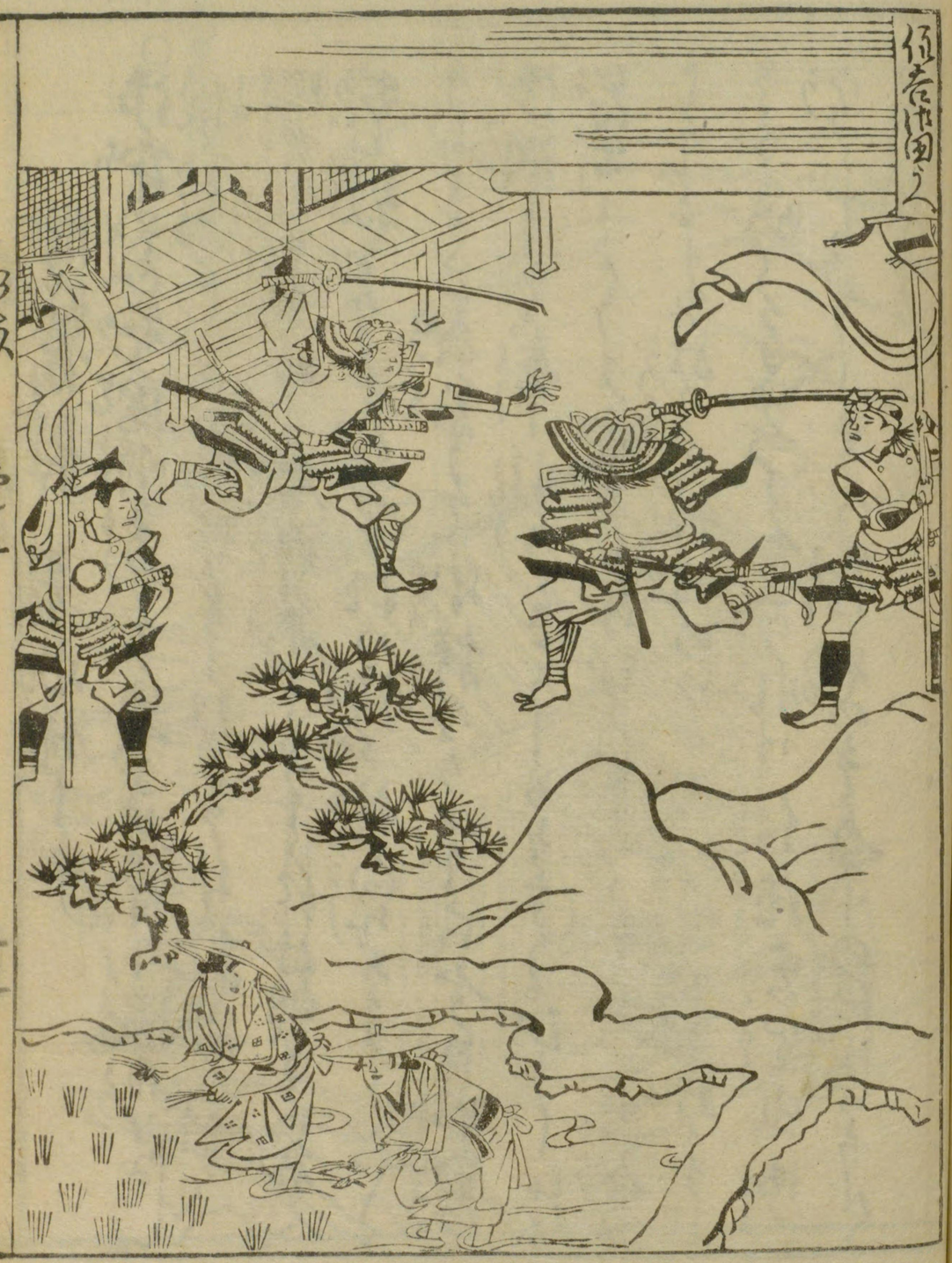
さてもさても葵の御前の
さつきからの御様子
いつもの事ながら
平う言
生い。
○
日吉舞
笛
出御
の。
御
家の
日の
まの。
祝
らふ

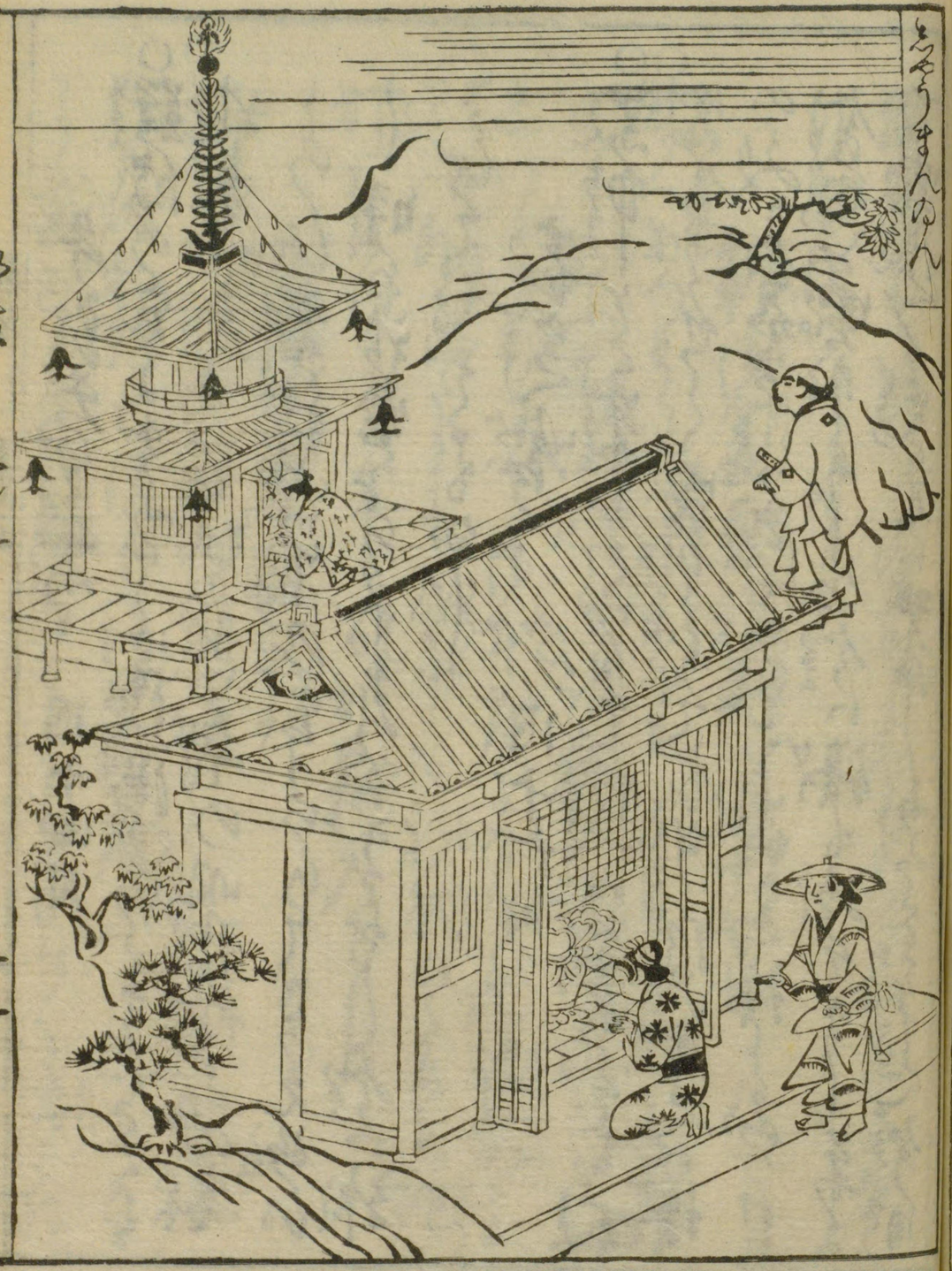


つゝしる幸氏のあく
ぬをとゝゝゝゝ時。侍よ。
ぎの神よゝゝて。尚
乃命て。粽を
救給へゝゝ。我れ
こゝゆく。永。。男雛よ
きづゝゝゝゝ時の
○いあく悪のる物の
ゝゝよ。命ざして
まをれまけて。国
うゝゝ。祝ゝ車

住吉清国極
半金弐両

ゝゝよ。永の命て。
浪よまづゝゝる
ゝゝおゝんべゝ
浪ゆゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝ





勝負事

○洛中洛外の男女貴賤老若おびただしく参詣す。今日も詰かけ詰かけ参詣す。中にも清水寺の観音は霊験あらたにましまして、諸願成就せずといふことなし。されば諸人信心をいたし、日参月参する事、昼夜ともに絶ず。ことに今日は、殊更参詣の人多し。中にも一人の男、観音の御前にて、大音あげて申やう、我等儀、賭事勝負事に、身上をつぶし、今は一銭の元手もなく、当惑仕候。何卒元手銭下され候はゝ、此度の勝負に、取返し申べく候。若又此願叶ひ候はゝ、百日の間、日参仕べく候。此願成就仕候はゝ、御礼として、金子百両奉納仕べく候。此願聞召届給はずば、此場にて自害仕べく候。と、声高に申上、しばらくありて、又申やう、今日は参詣の人多く、群集仕候間、定めて聞召届給はぬ事と存候。明日は参詣の人少かるべく候間、聞召届給はるべく候。と、申捨て帰りぬ。翌日は参詣の人少かるべきと、前日に

年玉の文　同十四日

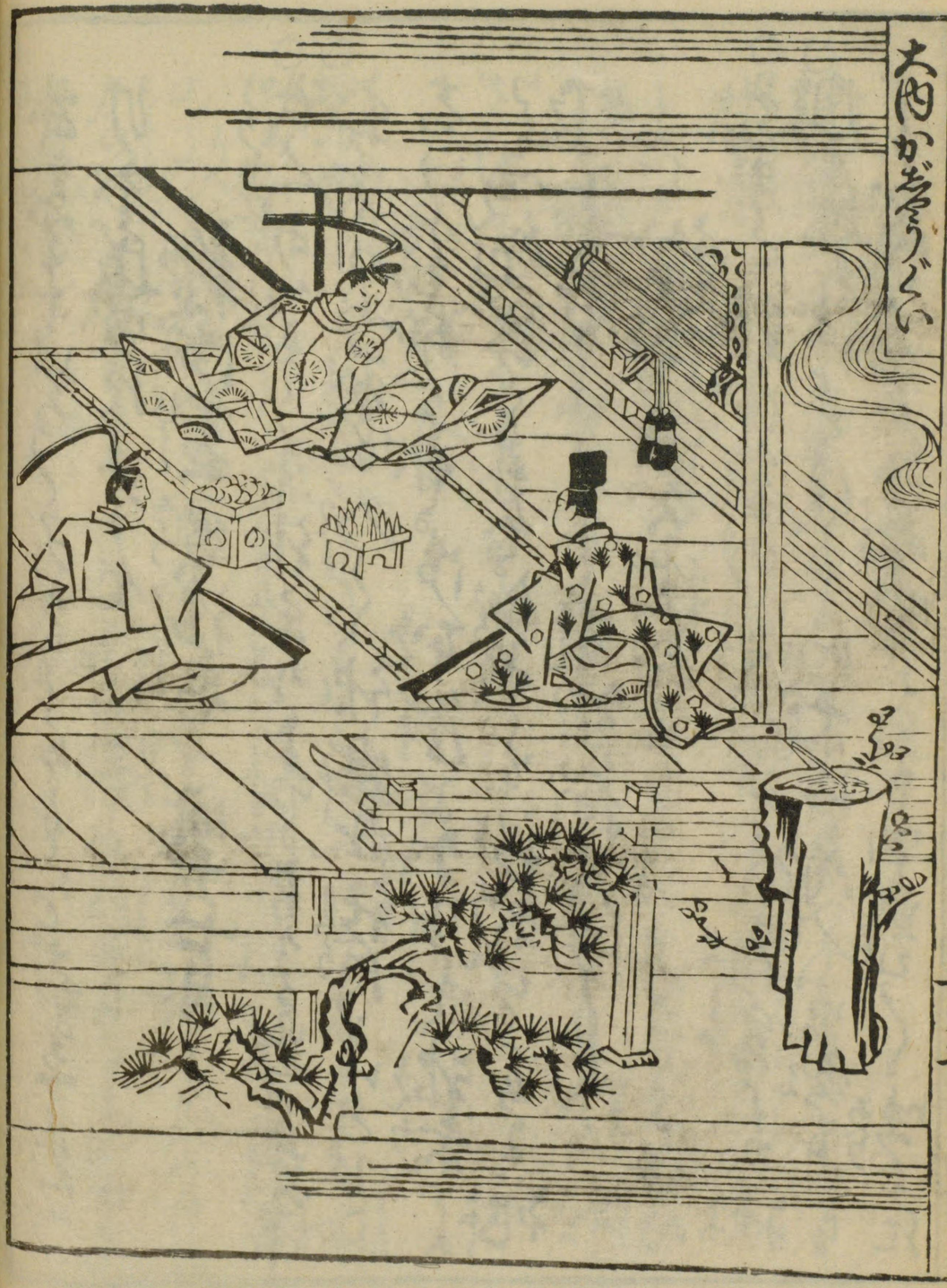
○羅紗の宮よまつのぞうり。汐湯まつのぞうり。
社雪へまつのぞうり。辛の明社。うの宮
しうひ。當社。下ろし。
一時。社雪。

おなじく　同十六日

○繁昌ぞうり。羅紗ぞうり。百一日ぞうり。
はるよまつのぞうり。雪のぞうり。食せんよ。
のぞうり。おなじく。猪
金の雪を。雪のぞうりを。
て。雪。

同十七日

○氏人ぞうり。新汐雪亜宮
ちりぞうり。社雪よ。
○芝まつ。新汐雪の宮
門よ。桃
打ちぼし
稲荷　宮社
○芝まつ。新汐雪の宮
門よ。桃の雨人。

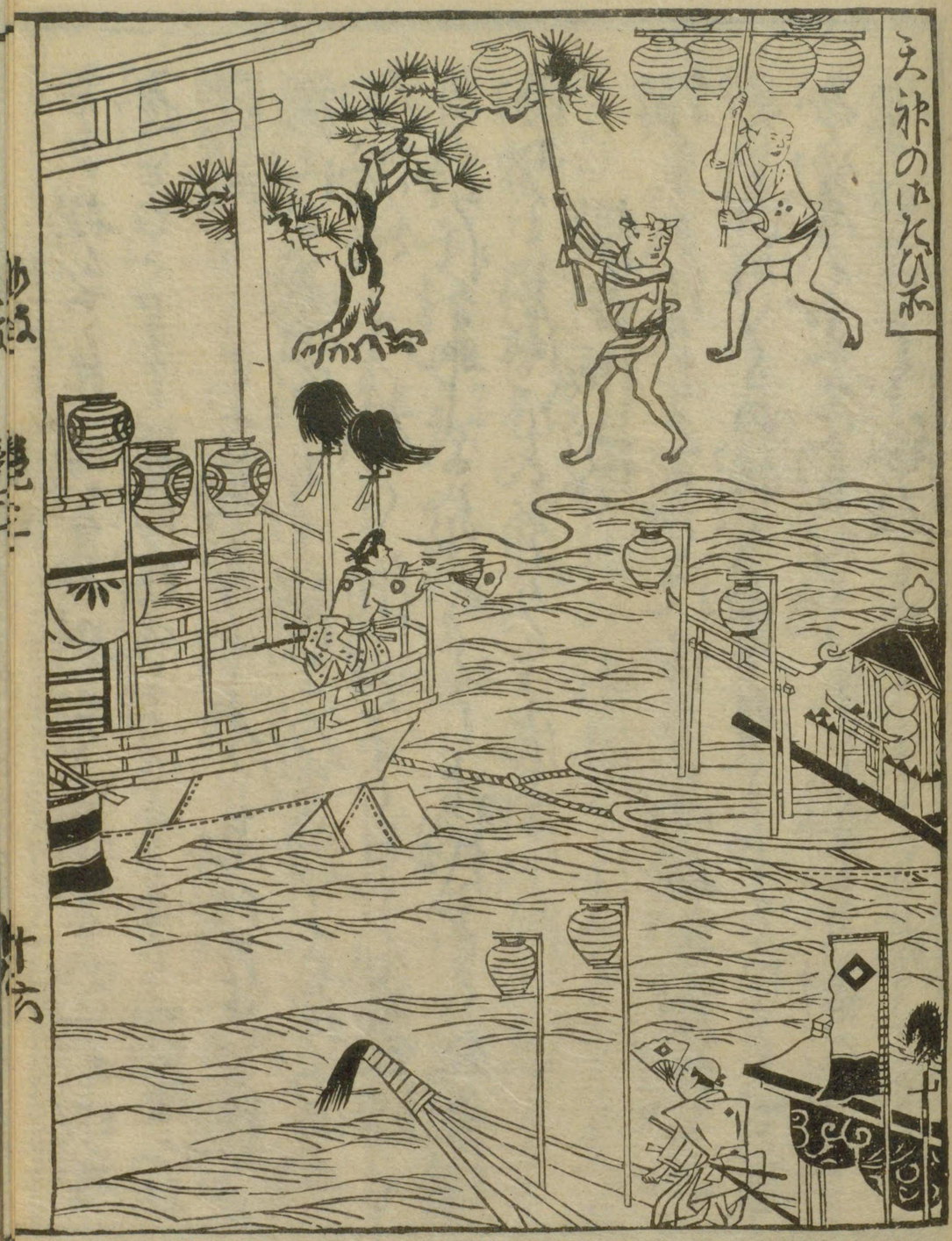


沙糖水よびこをいろ〳〵とこゝろ
てんを尽もてなしくいつもおやくに
猶集い。彼の俗の名よ仰ぐ

廿二日

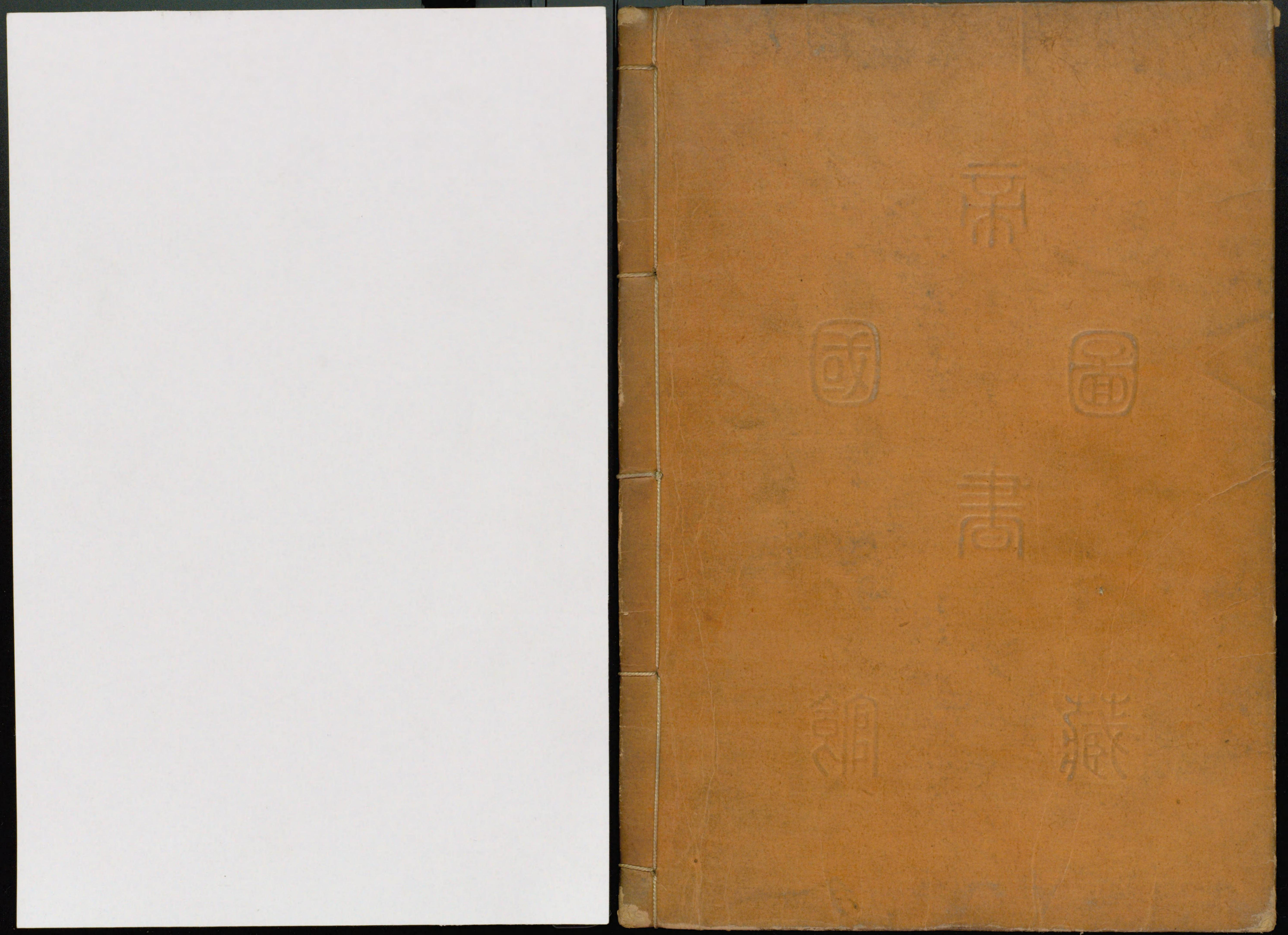
○昔日。沈約常。酒徒を招て。例
ふるまひ。さい秋の半酒宴あいて。
忙の時つまよみ詩をこゝろみ
一ての骨ぬきをとりてひ
よう。もてをとりて
今宮社のこちよ。いもの名所哉
もち立花の色くの
今九日を菊よう。本町さい菊人形

産屋宮



○菅原道真相撲をとりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千無七九のいのち物在る事澤の杉宮
ゝの宮 佐伯 ゝ 妙音寺 ゝ 畫像 ゝ
ひこ仁王門 神社 今日幸
参れる ゝ 神雲 ゝ ゝ ゝ
乃ち今迄三男 ゝ 也 乳
相傳是 ゝ 有乃至唯一人 ゝ
開き。治る事の。必ず昔二世の報ひやうと。
そのゝ書日 ゝ
明 鳴滝 ゝ
○畔日 夜半 ゝ
十七る九尾 ゝ
あぶ 法開き ゝ 仏事

ゝ。男の扇 ゝ 葦 ゝ
八祖の ゝ ゝ

162
台2
91